

【参考資料】

発達支援理論研修について

1. 発達支援理論研修の目的

保育や教育を実施する上で、特別な配慮が必要な子どもの行動について、支援者自らが解決の手立てを探り、適切に対応することができるよう、発達支援に関する理論とその具体的な手法を習得する。

2. 対象

本市職員のうち、次のいずれかに該当する者。

- ①成長・発達に課題のある乳幼児に接し、支援を行う、保健、福祉、教育行政に携わる者。
- ②幼稚園、保育所、こども園の職員・臨時的任用職員・支援員のうち、特別な配慮を要する子どもの発達支援に携わっている、あるいは関心がある者。

※原則として、4回すべてに参加できる者を対象とする。

3. 内容

	内容・テーマ
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ●開講式 ●オリエンテーション ●問題行動と対応の基本 <p>誰にとっての「問題」行動なのかという視点で、子どもが示す様々な行動をとらえなおす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●問題行動へのアプローチⅠ <p>グループワークによって事例検討を行いながら、応用行動分析の理論に基づき、問題行動のとらえ方について考える。</p>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ●問題行動へのアプローチⅡ・Ⅲ <p>グループワークにおいて、受講者が保育、教育の場で接している事例を通して、行動上の問題に介入するための一連の流れ（介入すべき行動上の問題の絞り込み方から、行動変容を促すための具体的な支援の在り方）について検討する。</p>
第3回	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回から第3回の研修を受けての振り返り <p>第1回から第3回までの研修を受講しての感想や、現場での対応の変化などについて話し合う。研修内容を他の職員に伝達する際の工夫点等についても検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●閉講式

※応用行動分析

「行動は個人と環境の相互作用から生じている」という考え方を基に、子どもが示した行動の意味と行動に対する働きかけの役割を正しく理解して将来の行動を予測し、それまでとは異なる働きかけによって、行動の変化をもたらすことを目的としたアプローチ。発達障がい等への支援として、大きな成果を上げている手法の1つ。

4. 実施日と人数

	第1回	第2回	第3回	第4回	受講者数	内訳
平成 24 年度	9 月 13 日	10 月 23 日	12 月 6 日	平成 25 年 2 月 14 日	27 名	保育所 12 名 幼稚園 11 名 その他 4 名
平成 25 年度	9 月 11 日	10 月 24 日	12 月 19 日	平成 26 年 2 月 19 日	15 名	保育所 9 名 幼稚園 3 名 その他 3 名
平成 26 年度	9 月 18 日	10 月 16 日	12 月 9 日	平成 27 年 2 月 17 日	12 名	保育所 9 名 幼稚園 0 名 その他 3 名
合 計					54 名	保育所 30 名 幼稚園 14 名 その他 10 名

平成 27 年度 第 4 回 習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
ひまわり発達相談センター評価部会 当日配布資料 平成 27 年 12 月 24 日

【参考資料】